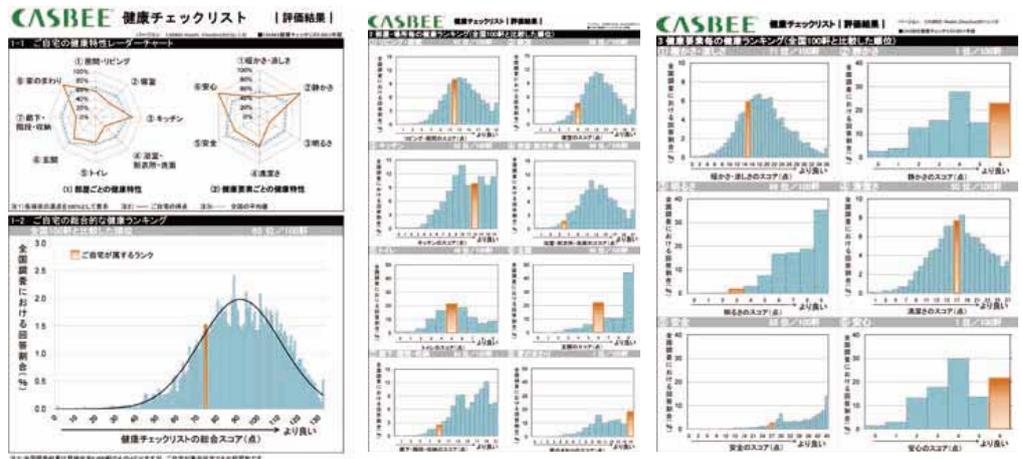


最終更新日 H24.10.24
調査・診断技術 No. 22103001

性能分野	環境・省エネルギー性能
大分類	現状診断（問題点等の把握）
中分類	健康性
技術の名称	CASBEE 健康チェックリストによる予備調査
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・居住者より不具合などの報告があった場合は、全戸にアンケート、ヒアリング等を行い、問題点を把握する。 ・一つの住戸で問題が発生している際は、他住戸でも同様の問題が発生している場合も多く、住棟全体での共通の問題を発見し、省エネ改修のきっかけとなる。
調査・診断技術の概要	<p>【主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋・場所ごとの健康に関する質問に答えることで、健康に影響を与える要素を見つけ、全国6,000軒の戸建住宅に対して行ったアンケート調査に基づき、自宅の健康ランキングを知ることができる。居住者自らの診断も可能。 <p>【特徴と手順】</p> <p>Web上で、50の質問項目に沿ってチェックリストに入力。 質問は50あり、居間・リビング、寝室、キッチン、浴室・脱衣所、トイレ、玄関、廊下・階段・収納、家のまわりの8分類。（介護対応はランキングには非表示） 評価結果表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康特性：レーダーチャート ・自宅の健康ランキング（総合スコア） ・部屋・場所毎結果 ・健康要素毎結果 <p>「健康に悪影響を及ぼすおそれがあるポイント」が見つかった場合、住まい方の改善アドバイスを提示。</p>  <p>診断結果例 < 出典：「CASBEE 健康チェックリストの概要」（一社）日本サステナブル建築協会 ></p>

共同住宅のタイプと適用できる技術	技術の種類	調査・診断技術 改修技術（劣化を補修する技術 性能を向上させる技術）	
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55 年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性が相当ある
		S55 年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性が相当ある
		S56～H2 年供給(総プロB)	使われる可能性が相当ある
		H3～12 年供給(総プロC)	使われる可能性が相当ある
		H13 年以降供給(総プロD)	使われる可能性が相当ある
	(補足)		
この調査を実施した後に利用される可能性のある改修技術			
技術が適用される建物の部位		共用部分 (躯体・外壁 屋根 建具 設備・配管等 その他共用部) 専有部分 (設備・配管 その他専用部(断熱材)) [破壊・微破壊した部位の復旧が必要 ()]	
団地で適用した場合のメリット		住棟まわりの土地が利用できること(仮設以外)() まとまった土地が利用できること(仮設以外)() 住宅の数が多く密度が高い() 特定の設備があること()	
足場の設置が必要		必要 不要 ()	
調査への影響	数日以上居住できない住戸が発生	該当 非該当 ()	
	一時的な影響が発生	断水などライフラインが一時的に利用不可 振動 騒音 粉塵 臭気 その他専用部分又は専用使用部分に対する制限 ()	
当該技術が利用される調査		居住者等が実施する調査 専門家が実施する調査 (不具合発生時 定期点検 調査・診断 耐震診断 省エネ)	
技術的限界			
参考資料	技術情報	・「CASBEE 健康チェックリストの概要」(一社)日本サステナブル建築協会	
	価格情報		